ISSN1881-2848

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

# 温故知新

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2022.7 Vol.40

令和4年7月発行
発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
https://www.suac.ac.jp/library/

## Contents

■表 紙
築山庭造傳 後編 下巻 ―― ❶

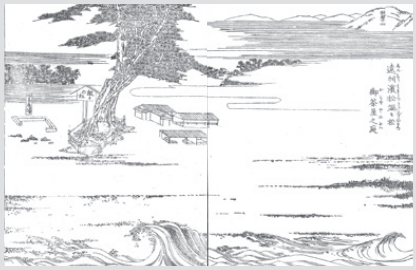
■図書館散歩
小説からこころを学ぶ ―― ❷
文化政策学科 教授
教務部長
小杉 大輔

私の図書空間 ―― ❸
デザイン学科 教授
文化・芸術研究センター長
礒村 克郎

■知っていますか？こんなサービス
学生購入希望（リクエスト） ―― ❹

■巻 末
図書館ニュース ―― ❽

築山庭造傳 後編 下巻



遠州濱松颯々松 御茶屋之庭

## 築山庭造傳 後編 下巻 籬島軒秋里[著]

文政十一年序, 明治後刷本

静岡文化芸術大学蔵 和田文庫
貴重書庫 [629.2/Ki 68/3]

今回は、日本庭園を扱った貴重な資料をご紹介しましょう。『築山庭造傳』は江戸時代の作庭秘伝書で、享保20（1735）年北村援琴斎の著と、文政11（1828）年籬島軒秋里の著があります。書名は同じですが、両者は「前編」「後編」に分けられ、それぞれ上中下3巻で構成されています。

後編の作者である籬島軒秋里は、本誌Vol.34でご紹介した『都名所圖會』の著者である秋里籬島と同一の人物です。彼は文政10（1827）年に『石組園生八重垣伝』2巻を著し、日本庭園の細部を具体的に記しましたが、その一部分を改作して本書を編みました。

後編の下巻では各地の作例を紹介していますが、その中の一つに「遠州濱松颯々松御茶屋之庭」と題された画があります。伝承では天慶1（938）年、浜松八幡宮が現在地へと遷座した際に、白狐が浜から携えてきた松の苗木が繁茂して「颯々の松」になったといいます。その後、「浜の松」が転じて里の名が「浜松」となり、浜松の名称の起源になったと伝えられています。

また、永享4（1432）年に室町六代将軍足利義教公が富士見物に下向した折、この松の下で宴を開き「浜松の音はざざんざ」（ざざんざは松が風に吹かれる音）と謡い、以後、この松を「颯々の松」と呼ぶようになった、との伝承もあります。

参考文献：上原敬二[編]『築山庭造伝：解説』（前編・後編） [629.2/U 36]
東京農業大学造園科学科[編]『造園用語辞典』（第2版） [629.03/To 46]
浜松八幡宮 境内 解説案内板「颯々の松」 [2022年7月3日閲覧]
浜松八幡宮Webサイト 「濵松名稱起源颯々之松 ざざんざの松」
http://www.hamamatsuhachimangu.org/guide/ [2022年7月3日閲覧]

文化政策学科 教授
教務部長
小杉 大輔
Kosugi Daisuke

# 小説からこころを学ぶ

私が一番読書をしたのは、小学生の頃です。小学校の図書室に毎日のように通っていたことが思い出されます。私が通った小学校は児童数が全校で1700人以上もいるマンモス校で、図書室はプレハブ校舎にありました。今でも、図書室の夏の暑い空気や本のにおいを覚えています。小学生の頃に大好きで、繰り返し読んでいたのが、江戸川乱歩の少年探偵シリーズとモーリス・ルブラン（南洋一郎訳）の怪盗ルパン全集です。ワクワクしながら読みました。どちらも、当時の私にとっては分厚くて重たい本でしたが、装丁や挿絵がそのままの文庫版を今でも買うことができ、息子と共有しています。自分が熱中した本を子どもも好きになってくれるのはとてもうれしいです。ちなみに、私の研究室は北0813ですが、怪盗ルパンの『８・１・３の謎』が連想されるので、とても気に入っています。推理小説好きはその後も続き、赤川次郎の三毛猫ホームズシリーズから始まり、コナン・ドイルのシャーロックホームズシリーズ、アガサ・クリスティー（定番ですが、『そして誰もいなくなった』と『ABC殺人事件』が好きです）など、少しずつ難しい本に挑戦していったことを覚えています。

図書館の話に戻ります。私が、学校の図書室以外で初めて行った（と記憶している）図書館は、学区にあった静岡県立中央図書館でした。丘の上にある大きな図書館です。どんな本を借りたのかは覚えていませんが、ひんやりした空気と静けさ（たくさん人がいるのに）、背の高い書架、大量の本に驚いたことは鮮明に覚えています。その後もこの図書館に通い続けていれば、もっとたくさんの本に触れることができたのですが、もったいないことに中学生から高校生にかけては堅い本の読書はそれほどしておらず、図書館に通うようになったのは、大学生になってからでした。

私が通った大学の附属図書館は、当時朝9時から夜9時まで開いていて、学部生の頃は、授業以外の時間の居場所の一つでした。授業で分からないことがあると図書館で本を探して調べて、という割と真面目なこともしていましたが、勉強に飽きるとスポーツ新聞を読んだり、いろいろな雑誌を読めたりするのも楽しみの一つでした。本学の図書館もとても気に入っています。2階の閲覧室の明るい感じが心地よく、自分が学生だったら、ここで多くの時間を過ごしていただろうなと思います。

さて、中学・高校の頃はそれほど読書をしなかった私ですが、その頃読んだ（限られた）本の中にも、今の自分に影響を与えてくれているなと思うものがあります。まず、夏目漱石の『こころ』です。最初にこの本を自分で読んだときには、登場人物の気持ちが分からなくて、難しい本だなとしか思えなかったのですが、高校の文集で（自分の中学の先輩が書いた）この本の感想文を読み、「エゴイズム」という視点を知り、自分の読みの浅さに気づかされました。人の心理に関心をもつきっかけになった本なのかもしれません（私は一応心理学者です）。芥川龍之介の『鼻』も高校生の頃に課題で読んだのですが、今思えば、かわいらしい話を通じて、人の心に存在する、他者の不幸に対する相矛盾した感情について教えてくれた本だといえます。井伏鱒二の『山椒魚』も中学か高校で読んだと思いますが、後に読み返して、その心理描写の巧みさに感銘を受けました。

研究者になってから、心理学的な興味から手に取った小説もあります。まず、菊池寛の『恩讐の彼方に』です。3人いる私の心理学の師匠のお一人から薦められて読んだのですが、「赦す」という心理について考えさせられました（この本については読むのが遅すぎました）。それから、水上勉の『金閣炎上』です。金閣寺に放火した主人公の事件に至るまでの性格形成や成長時のストレス、統合失調症の当事者の内的世界について、丁寧に描写されている作品です。この本は、三島由紀夫の『金閣寺』と題材は同じなのですが、書き方がずいぶん異なり、その点も面白いです。

ここで挙げたような文学作品を読んでいると、人の心の感情の側面、とくに「人がいつ、どんなときに、どんな感情を抱くのか」を明らかにしてくれるのは、心理学者ではなく、小説家なんだなと強く思います。これは、「私は心理学者ですが、人の気持ちはよく分かりません」という言い訳のようなものであり、3人の師匠のうちの他のお一人の受け売りでもあるのですが。たとえば、太宰治は今でもファンが多い小説家ですが、彼の作品を読むと「自分のことが書かれている」と思う人も多いと言われているようです。そして、私は、そういった方々が太宰に共感するのは、彼が人の（彼自身の）心理を、その感情の機微を、分かりやすく、ときに生々しく表現しているからだと思います（共感するかどうかはさておき、私も太宰治の作品は大好きです）。太宰の作品に限らず、文学作品に触れることで、私たちは、人の感じ方や心の世界についての理解を広げたり、深めたりすることができるのだと思いますし、それを他者と伝えあうことで、その理解はさらに広がり、ますます深まるのだと思います。こういった面では、心理学の研究論文は、小説には遠く及びません。

最近は、小説を読む機会もありませんでしたが、若い学生さんの心理を理解するためにも、新たに何か読まなければと思っています。お薦めの小説があれば教えてください。しかし、久しぶりに太宰も読みたくなったので、先に『お伽草紙』でも読もうかなと思います。

## 文章中で紹介した資料

モーリス・ルブラン[原作]; 南洋一郎[文]
『8・1・3の謎：怪盗ルパン』
953.7/L 49

アガサ・クリスティー[著]; 清水俊二[訳]
『そして誰もいなくなった』
933.7/C 58

アガサ・クリスティー[著]; 堀内静子[訳]
『ABC殺人事件』
933.7/C 58

夏目漱石[著]
『こころ』
913.6/N 58

芥川龍之介[著]
『羅生門；鼻』
913.6/A 39

井伏鱒二[著]
『山椒魚』
913.6/I 12

菊池寛[著]
『藤十郎の恋；恩讐の彼方に』
913.6/Ki 24

水上勉[著]
『金閣炎上』
913.6/Mi 36

三島由紀夫[著]
『金閣寺』
913.6/Mi 53

太宰治[著]
『お伽草紙』
913.6/D 49

デザイン学科 教授
文化・芸術研究センター長
礒村 克郎
Isomura Katsuro

**文章中で紹介した資料**

ダグラス・R・ホフスタッター[著];
野崎昭弘, はやしはじめ, 柳瀬尚紀[訳]
『ゲーデル, エッシャー, バッハ: あるいは不思議の環』
104/H 81

佐藤信夫[著]
『レトリック感覚』
081/Ko191/1029

佐藤信夫[著]
『レトリック認識』
081/Ko191/1043

榮久庵憲司[著]
『幕の内弁当の美学: 日本的発想の原点』
501.8/E 44

平松剛[著]
『磯崎新の「都庁」: 戦後日本最大のコンペ』
526.31/H 65

瀧口範子[著]
『行動主義 レム・コールハースドキュメント』
523.359/Ko 78

吉武泰水[著]
『夢の場所・夢の建築: 原記憶のフィールドワーク』
145.2/Y 92

東京国立近代美術館[編]
『荒川修作の実験展: 見る者がつくられる場』
706.98/A 63

鹿島出版会
『都市住宅』
(所蔵巻号)1-72,74-78,80-230

アントネッラ・アンニョリ[著];
萱野有美[訳]
『拝啓市長さま、こんな図書館をつくりましょう』
010.1/A 19

# 私の図書空間

2009年に本学に着任することになり、研究室が使えることを楽しみにしていました。大学の研究室として膨大な本棚にあこがれ、デザイン実務型の教員としては、プロジェクトを行うオフィスとしての環境もどうつくるか、思案しました。最初は、がらがらの部屋で授業の教材などを作り始めたのですが、なんとも調子が出ません。荷物の引っ越しを早めて、同僚の先生にご協力をむりやりお願いし、浜松での住居からたくさんの段ボールを研究室に運び込みました。既存の本棚にはガラス戸やスチールの扉が入っていたので、全て取っ払い、本の背表紙が直接読めるようにしました。水平方向には（広く捉えた）デザイン領域別に、垂直方向には抽象度で並べてみました。背表紙が読めるだけでも、教材制作の進み方がよくなったものでした。

本棚に並行してテーブルを長く並べ、個人作業やプロジェクトなどのグループ作業を本棚の情報に沿った位置で活動できるように空間構成をしました。本棚の対面の壁は鉄板を取り付け、資料や図面を貼り込めるようにしています。自分なりの図書館を作ったようなものでした。

並んでいるいろいろな本は、良書ということはわかっているのですが、結構内容はうろ憶えです。うろ憶えなのに良書だと言えるのはなぜかというと、その本によって視点が増えたり変わったりした時の感覚はしっかり憶えているからかなと考えました。そのような本は、抽象度の高い段に並んでいます。

『ゲーデル, エッシャー, バッハ : あるいは不思議の環』

科学と美術と音楽における循環的な構造の考え方を縦横無尽に領域横断して記述している超難解な本です。私なりに汲み取ったのは、各領域での考え方や真理と思われるものを示す図版が豊富に載っており、多様なそれの構造や構成を本文で読むことで構成力がトレーニングされるのではないかということでした。

『レトリック感覚』『レトリック認識』（2冊続けて読みたい）

レトリックというと、本質ではない表現上だけの言葉というニュアンスもあり得ますが、実は言葉や考え方の創造性につながる体系だとすることを論じた本です。言葉のデザインの方法でもあるし、かたちのデザインにも通じています。

専門書は難解かもしれないけれど、その内容をしっかり把握する読み方が必要なのでしょうが、デザイン先達の人間性を描いたドキュメンタリータッチの本も面白くてためになるかと思います。仕事の進め方や働き場の様子がリアルに感じられるものがあり、学生のみなさんにもデザインの考え方やプロセスが伝わりやすいかなと思います。研究室の本棚では具象性がややつよい中段に並べています。

『幕の内弁当の美学』

著者の榮久庵憲司は、インダストリアルデザイナーでもあり僧侶でもあるのですが、学生の頃に読んで、欧米優位かと思われたモダンデザインというものが、日本由来でもあると勇気づけられました。

『磯崎新の「都庁」』

東京都庁のコンペ案の中で唯一、超高層ビルではなく巨大な中層ビルを提案した建築家のスタッフの目線で、コンペのプロセスが描かれています。自分で磯崎新のコンペ案を担当して設計しているようにわくわくする本です。

『行動主義　レム・コールハースドキュメント』

プロジェクトの検討と修正を延々と続ける建築家のオフィスの創造的なドタバタが描いてあります。誰だって試行錯誤が大切なのだなと考えさせられる本です。

『夢の場所・夢の建築』

著者の吉武泰水は、建築計画学の権威です。建築計画学は施設の機能と使われ方を厳密に捉えて構成するといったような、どうしても硬い先入観があるのですが、その権威が夢を記録し、現れてきた場所や空間を考察するという意外性、領域横断性に富んだ本です。

本棚の下段には具象性が高い本や手元に置いておきたい雑誌が並んでいます。

『見る者がつくられる場：異端実験荒川修作』（表題のママ）

現代美術家の荒川修作は、公園や集合住宅までつくってしまいましたが、それ以前のベースとなる考え方の展覧会の図録です。展覧会では、図版だけでなく模型や空間体験の場もあり、視覚や空間感覚について考えさせられる環境だったのを憶えています。

『都市住宅』（雑誌）

かなり以前に廃刊になってしまいましたが、都市や建築に意欲的な編集をしていた雑誌です。大学の図書館にはバックナンバーがあると思います。学生の時、母校の図書館でこの『都市住宅』やいろんな建築雑誌のバックナンバーを通して読むという荒業をしたことがありました。図書館ならではのひとつの読み方でしょうけれど、同時代の建築の考え方が順序よく頭に溜まっていく感じがしました。

最後に、研究室で購入した

『拝啓市長さま、こんな図書館をつくりましょう』

研究室で試みた自分なりの図書空間は、知恵が詰まった本棚の前で様々な活動が行われるという古典的な図書館のあり方でしたが、この本には、多様な図書館のあり方の可能性が集められています。公共の空間を考えるのは楽しそうだなと感じさせてくれる本です。

（文中敬称略）

# 知っていますか？こんなサービス

## 学生購入希望（リクエスト）

図書館・情報センターを利用していて、「読みたい本があるけど所蔵されていない」「こんな本を置いてほしい」「卒業制作に必要な本があるけど、個人では高価で買えない」などといったことはありませんか?

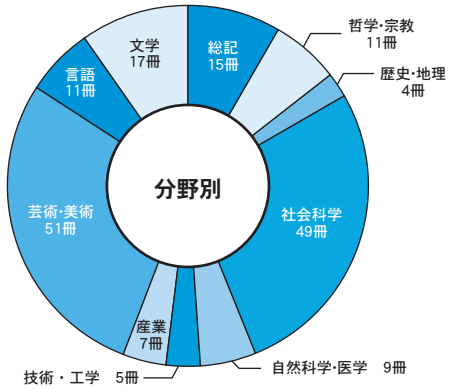
そのような時は、学生購入希望(リクエスト)を活用してください。学生購入希望を申込するときは、カウンター前の掲示板にある「購入希望図書申込書(3枚綴)」に必要事項(図書の情報など)を記入して、カウンターに提出してください。

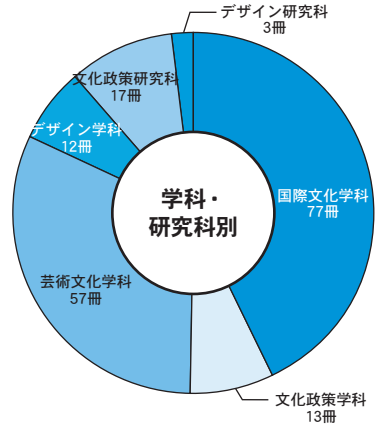
### ★学生購入希望（リクエスト）について

・学生購入希望は、本学の学生を対象とするサービスです。
・2021年度は6〜7ページ掲載の179冊を受け入れました。
・絶版や品切となっている図書、洋書、CDやDVDなどの視聴覚資料も申込可能ですが、入手できないこともあります。
・雑誌・漫画類および1 点が5 万円以上の高額図書を除きます。
・学習や調査研究に無関係の個人的な利用目的は対象外です。
・一度に多数の購入希望を申し込むのはご遠慮ください。

その他、学生購入希望で不明なことがありましたら、カウンターでご相談ください。

### ■2021年度の受入実績




## 学生購入希望（リクエスト）で購入した図書のご紹介

### 『52ヘルツのクジラたち』

町田そのこ [ 著 ]
中央公論新社 , 2020.4
[913.6/Ma 16]

表紙の美しさとタイトルに惹かれてこの本を手に取りました。『52ヘルツのクジラたち』という聞き慣れないタイトルに疑問を感じながらも、読み終わる頃にはこのタイトル以外の候補が考えられないと思うほど衝撃を感じました。表紙の美しさとは対照的に、主人公の貴瑚や彼女がこの話の中で関わっていく人たちには苦しくてつらい経験や思いがあり、それを一人で抱え込んでいます。「伝えたくても届けられない声がある」ということを身近に感じさせられる、せつなくて優しい物語です。

タイトルにある「52ヘルツのクジラ」は世界でもっとも孤独なクジラと言われています。一般的に20ヘルツで鳴くクジラとは声の周波数が異なり、高すぎる声で鳴く「52ヘルツのクジラ」の声はほかのクジラに届くことがなく群れと出会うことができないからです。このクジラのように、虐待を受ける子どもや誰にも相談できない悩みを抱えながら生きている人たちは、たくさんいるはずの仲間に助けを求めてもその想いが届くことはありません。孤独な「52ヘルツのクジラ」と「想いを届けられない人たち」を重ね合わせて生活が描かれています。

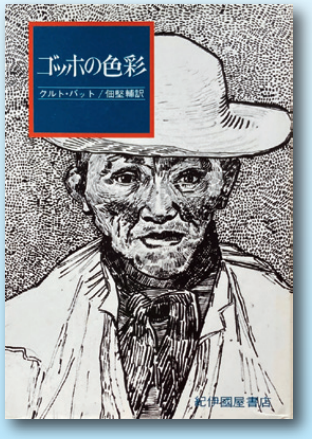
日々テレビやネットニュースから流れてくる情報の中には虐待、介護、高齢化、自殺など様々な社会問題が取り上げられています。私はこの本を読むまで、このような問題は自分の世界とは切り離された世界で起こるものだと思い込んでいました。しかし、自分の周りで問題が起きていても誰かがそれに気づかれないようにふるまうことで、自分が気付けていないだけなのかもしれないと思うようになりました。

世の中にはSOSを出しているのに近くにいる人にさえ届かないことが身近にあると感じました。また、助けを求める事さえできない、助けを呼ぶことを知らない状況もあると思います。虐待の問題に限らず、自分のそばにも届かない声が今もあるのだということを認識し、まずは寄り添おうと心がけることが大切で自分にもできる事なのではと感じました。助けを求めるべき誰かの声が、すぐに伝わる世の中になることを願っています。

【文化政策学部 文化政策学科 4年　栗田 菜々子】

## 『ゴッホの色彩』

クルト･バット [ 著 ]; 佃堅輔 [ 訳 ]
紀伊国屋書店 , 1975.8
[723.359/G 57]




みなさんは「ゴッホ」と聞いて、どのような作品を思い浮かべるでしょうか。ひまわり？アルルの風景？あるいはゴッホの肖像画？その多くは鮮やかな色彩で描かれた作品なのではないかと思います。それらの鮮やかな色彩は、ゴッホの特徴のひとつではないでしょうか。中でも、鮮烈な黄色を多用した作品は、ゴッホを象徴するものであるように感じます。わたしはそのようなゴッホの色彩に魅せられ、どのようにしてゴッホの色彩が確立されたのか知りたいと思い、本書を手に取りました。

本書は7つの章で構成されています。ゴッホの色彩について、ゴッホが数多くの手紙に遺した色彩論はもちろん、ゴッホの作品そのものから色彩論を展開してその芸術性を深めようと試みています。ドラクロワによる影響や印象派画家たちとの関係など、ゴッホという画家を形作った出来事についても触れられています。オランダからパリ、アルル、晩年へと至る主要作品について図版を交えながら検討しており、ゴッホ自身が取り組んだ色彩論について手紙を参照しつつ具体的に整理しているため、ゴッホの色彩論が確立される過程を詳細に知ることができました。

ゴッホは一貫して、色彩によって感情を表現しようと試みました。ある時は情熱的に、ある時は狂気的に…様々な感情、色彩と向き合い続けたゴッホ。ゴッホ特有の色彩は精神疾患や目の病気によるものとも言われていますが、本書を読むと、ゴッホ自身が色彩に対してどれほど情熱を持っていたかがわかります。ゴッホの作品の鮮やかでまばゆい色彩がより鮮明に見えてきます。身近な情景や人物に思いを馳せ、日常に色をつけ、晩年に至るまで自らの色彩を追求したゴッホの情熱に触れてみてはいかがでしょうか。

【文化政策学部 芸術文化学科 3年　財部 優織】

## 『日本語社会のぞきキャラくり：顔つき・カラダつき・ことばつき』

定延利之 [ 著 ]
三省堂 , 2011.3
[810.14/Sa 13]

私は50代の男性です。5年前に仕事を辞めて大学に入りました。今は大学院の1年生です。愛犬に「かわいいでしゅね、これ食べましゅか。」とおやつを与える姿を同僚や同級生に見られたくありません。偶然見られてしまったら、私も見た人も気まずい思いをするでしょう。本書ではこういったケースで互いに気まずい思いをするメカニズムを、著者が設定したキャラクタという概念で説明しています。キャラクタとは「本当は変えられるが、変わらない、変えられないことになっているもの。それが変わっていることが露見すると、見られた方だけでなく見た方も、それが何事であるかわかるものの、気まずいもの」（本書：p. 199）です。

キャラクタとことばのかかわりは3種類あると著者はいいます。その内の1つが発話キャラクタです。「わしは～じゃ」と話す人からは〈老人〉とか〈博士〉がイメージされます。発話キャラクタとはこのイメージされる話し手のことです。「～でしゅ」と話す私は、私が外に見せたいキャラクタ「そこそこ真面目な50代男性」に合いません。同僚や同級生が私に持っている発話キャラクタともずれています。互いに気まずい思いをするのはそのためです。

言語学・コミュニケーション論を専門とする著者は「コミュニケーションやことばの研究に、キャラクタという考えを取り入れる必要がある」（本書：p. 192）と考えています。「明日は晴れますな」と若くて優秀な女子留学生に言われて脱力した経験から、日本語教育でもキャラクタという問題が重要になると書いています。

私の前職は日本語教師で、今も時々教えています。先日20代のベトナム人女性学習者に「先生、これ食べるか。」とお菓子を差し出されました。この時感じた違和感もキャラクタという視点から説明できそうです。コミュニケーションにモヤモヤを感じている人はこの本から解決のヒントが得られるかもしれません。ことばに興味がある人は、ことばの奥深さを楽しむことができる本です。

【大学院 文化政策研究科 1年　田野 聖一】

## 受入図書一覧

| 請求記号 | 資料名 | 請求記号 | 資料名 |
|---|---|---|---|
| 002.7/D 83 | 独学大全：絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための55の技法 | 336.3/A 47 | リーダーの仮面：「いちプレーヤー」から「マネジャー」に頭を切り替える思考法 |
| 007.35/A 43 | SNS変遷史：「いいね!」でつながる社会のゆくえ | 336.3/Ka 41 | 究極のリーダーシップ：最大の成果をあげるための10の極意 |
| 007.35/N 68 | デジタル・ミニマリスト：スマホに依存しない生き方 | 336.49/H 57 | 人が動きたくなる言葉を使っていますか |
| 007.6/Ki 66/2022 | キタミ式イラストIT塾ITパスポート 令和04年（情報処理技術者試験） | 361.235/B 67 | ブルデュー『ディスタンクシオン』（NHK100分de名著） |
| 007.6/Ta 33 | いちばんやさしいITパスポート：絶対合格の教科書+出る順問題集 令和3年度 | 361.454/Tu 6 | 一緒にいてもスマホ：SNSとFTF |
| 007.63/Sh 78 | Web制作者のためのGitHub（ギットハブ）の教科書 | 361.5/F 17 | ほつれゆく文化：グローバリゼーション, ポストモダニズム, アイデンティティ |
| 019.12/H 84 | レバレッジ・リーディング：100倍の利益を稼ぎ出すビジネス書「多読」のすすめ | 361.5/H 87 | BLの教科書 |
| 021.3/Ko 24 | 取材・執筆・推敲：書く人の教科書 | 361.7/Ta 84 | 共同性の地域社会学：祭り・雪処理・交通・災害 |
| 023.8/Su 96 | 検閲・メディア・文学：江戸から戦後まで | 365/Ma 73 | 持続可能な暮らし×自然系ゲストハウス：脱消費、スロー、ミニマル、ローカル |
| 051.7/I 43 | 編集長から読者へ：婦人雑誌の世界 | 366.89/Sa 85 | 日本の外国人労働者受け入れ政策：人材育成指向型 |
| 069/I 93 | 博物館と文化財の危機 | 366/Ma 82 | 働くことの人類学：活字版 |
| 092.1/Sh 17 | 芝川町誌 [初巻] | 367.1/I 89 | ジェンダーで学ぶ社会学 全訂新版 |
| 092.1/Sh 17 | 芝川町誌 追補 | 367.21/I 13 | 戦後婦人問題史：共同討議 |
| 092.1/Y 97 | 由比町史 [本編] | 367.21/Ki 42 | 婦人雑誌にみる大正期：『婦人公論』を中心に |
| 095.177/Ma 17 | 開発の時間開発の空間：佐久間ダムと地域社会の半世紀 | 367.21/Se 13 | 炎上CMでよみとくジェンダー論 |
| 102/O 24 | ゼロからはじめる!哲学史見るだけノート | 367.21/Ta 59 | マチズモを削り取れ |
| 141.1/Sc 1 | 人はなぜ話すのか：知能と記憶のメカニズム | 367.5/Y 71 | Pretty boys : legendary icons who redefined beauty (and how to glow up, too) |
| 141.94/Ta 59 | 「繊細さん」の本：「気がつきすぎて疲れる」が驚くほどなくなる | 367.99/U 75 | 国際セクシュアリティ教育ガイダンス：科学的根拠に基づいたアプローチ 改訂版 |
| 146.8/To 23 | 心はどこへ消えた? | 368.2/Ku 46 | ルポ路上生活 |
| 159.4/D 45/1 | 仕事は楽しいかね? [1] | 368.6/I 96 | キツネ目：グリコ森永事件全真相 |
| 159.4/D 45/2 | 仕事は楽しいかね? 2 | 368.61/F 64 | 決闘の話 |
| 159.7/J 29 | 人生は20代で決まる：仕事・恋愛・将来設計 | 369.261/H 69 | 介護する息子たち：男性性の死角とケアのジェンダー分析 |
| 159.7/N 15 | 喜ばれる人になりなさい：母が残してくれた、たった1つの大切なこと | 371.7/B 58 | 教育評価法ハンドブック：教科学習の形成的評価と総括的評価 |
| 159.7/Y 94 | 自由であり続けるために20代で捨てるべき50のこと | 375.19/Ka 94/1 | 映像教育論 |
| 159/H 76 | 実践!世界一ふざけた夢の叶え方 | 375.19/Ka 94/2 | 映像児童文化財の製作法（映像教育論:付録） |
| 159/Y 15 | 世界一やさしい「やりたいこと」の見つけ方：人生のモヤモヤから解放される自己理解メソッド | 376.9/Sa 85 | 多文化社会に生きる子どもの教育：外国人の子ども、海外で学ぶ子どもの現状と課題 |
| 216.5/N 51 | 西大寺古絵図は語る古代・中世の奈良：特別陳列 | 382.1/Ki 42/20 | 病気・衛生（近代庶民生活誌:20） |
| 237/N 33 | ヴェネツィアの歴史：海と陸の共和国 | 382.246/Y 86 | 神の島楽園バリ：文化人類学ケースブック |
| 290.9/Ku 14 | 女は歩く | 383.1/Sh 42 | ファッションインジャパン1945-2020：流行と社会 |
| 291.52/Y 81 | 信州ミステリー紀行：知っているようで知らない意外な事実 | 384.31/Ta 56 | 雨乞習俗の研究 オンデマンド版 |
| 302.1/Y 19 | 「青年歌集」と日本のうたごえ運動：60年安保から脱原発まで | 384.7/Y 24 | オカマの日本史：禁忌なき皇紀2681年の真実 |
| 302.2/A 27/253 | ポストコロナ時代の東アジア：新しい世界の国家・宗教・日常（アジア遊学:253） | 388.1/Y 43 | 都道府県別にっぽんオニ図鑑 |
| 304/Ku 61 | サボる哲学：労働の未来から逃散せよ | 389/Ke 15 | 流感世界：パンデミックは神話か? |
| 309.7/Ma 82 | くらしのアナキズム | 389/Y 84 | ローカルとグローバル：人間と文化を求めて（米山俊直の仕事） |
| 316.822/Sh 49 | 命がけの証言 | 404/I 53 | 脳と森から学ぶ日本の未来："共生進化"を考える |
| 319.1021/H 77 | 「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし | 491.77/H 22 | 新型コロナウイルス感染症と人類学：パンデミックとともに考える |
| 319.8/A 49 | 核兵器禁止条約を使いこなす | 493.46/Ka 76 | 食べることと出すこと（シリーズケアをひらく） |
| 319.8/N 59/2 | 「核なき世界」への視座と展望（なぜ核はなくならないのか:2） | 493.7/O 38 | 日本精神科医療史 |
| 319.8/Th 9 | 光に向かって這っていけ：核なき世界を追い求めて | 493.8/I 33 | 感染症対人類の世界史 |
| 332.3/W 29 | EUの公共政策 | 493.8/Ko 11 | 新型肺炎感染爆発と中国の真実：中国五千年の疫病史が物語るパンデミック |
| 334.41/N 25 | 日本の移民統合：全国調査から見る現況と障壁 | 493.82/Ko 98 | 種痘という「衛生」：近世日本における予防接種の歴史 |
| 334.41/Sh 49 | 日本社会の移民第二世代：エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今 | 493.82/Y 48 | 日本のワクチン：開発と品質管理の歴史的検証 |
| 334.41/Su 96 | アンダーコロナの移民たち：日本社会の脆弱性があらわれた場所 | 493.84/I 27 | ペストと近代中国 |
| 334.41/To 67 | 国家と移民：外国人労働者と日本の未来 | 518.8/I 76 | 思考としてのランドスケープ地上学への誘い：歩くこと、見つけること、育てること |
| 334.46/Ka 38 | 越えていく人：南米、日系の若者たちをたずねて | 518.8/Ka 84 | 中世後期シエナにおける都市美の表象 |

| 請求記号 | 資料名 | 請求記号 | 資料名 |
|---|---|---|---|
| 518.8/Ta 47 | ランドスケープの夢 | 763.2/C 53 | ショパンをどのように弾きますか? : その答えを探してみましょう |
| 589.7/Su 73 | 万年筆クロニクル | 763.9/Ka 82 | コミュニティ・ジェネレーション : 「初音ミク」とユーザー生成コンテンツがつなぐネットワーク |
| 589.7/Ta 77 | 泉筆・万年ペン・万年筆 | 763/N 86 | 人と神と音 : 楽器をフィールドワークする |
| 673.78/Ts 32 | ワークマン式「しない経営」: 4000億円の空白市場を切り拓いた秘密 | 770.4/H 25 | 文化と文化をつなぐ : シェイクスピアから現代アジア演劇まで |
| 673.83/U 73 | 百貨店・デパート興亡史 | 770/P 28 | The intercultural performance reader |
| 673.94/Sa 25 | ルールメイキング : ナイトタイムエコノミーで実践した社会を変える方法論 | 771.6/Su 96 | The theatre of Suzuki Tadashi |
| 674.3/To 46/2020 | コピー年鑑 2020 | 772.1/Ka 53 | 昭和戦時期の娯楽と検閲 |
| 674.9/Sa 34 | トリス広告25年史 | 772.1/Y 86 | 歌舞伎と宝塚歌劇 : 相反する、密なる百年 |
| 675/A 43 | シェアしたがる心理 : SNSの情報環境を読み解く7つの視点 | 778.7/R 38 | アニメ建築 : 傑作背景美術の制作プロセス |
| 689.2246/Y 86 | 地上の楽園の観光と宗教の合理化 : バリそして沖縄の100年の歴史を振り返る | 778.77/B 13 | Vision : ストーリーを伝える : 色、光、構図 |
| 702.07/O 96 | 現代アートを殺さないために : ソフトな恐怖政治と表現の自由 | 778.77/B 94 | ティム・バートンの世界 |
| 702.3/Ko 12 | 庭園のコスモロジー : 描かれたイメージと記憶 | 778.77/I 23 | エヴァンゲリオン快楽原則 |
| 706.9218/U 96 | 歌川国芳 : 没後一六〇年記念 : Utagawa Kuniyoshi | 778.77/Sh 89 | 屍者の帝国アートワークス |
| 721.025/C 52 | 日本における中国画題の研究 | 778.8/J 46 | ジェンダーで見るヒットドラマ : 韓国、アメリカ、欧州、日本 |
| 723.359/B 66 | ヒエロニムス・ボス : 奇想と驚異の図像学 | 778/I 89 | 仕事と人生に効く教養としての映画 |
| 723.359/B 66 | ヒエロニムス・ボスの世界 : 大まじめな風景のおかしな楽園へようこそ | 782.3/C 91 | ランニング王国を生きる : 文化人類学者がエチオピアで走りながら考えたこと |
| 723.359/G 57 | ゴッホの色彩 | 804/Ka 98 | AIは「絶対に押すなよ」を理解できるか |
| 723.36/I 87/8 | Painted piety : panel paintings for personal devotion in Tuscany, 1250-1400 | 804/Sa 85 | かかわることば : 参加し対話する教育・研究へのいざない |
| 723.37/B 28 | ルネサンス絵画の社会史 (ヴァールブルク・コレクション) | 807/C 28 | 言語政策からの考察 (CEFRの理念と現実:理念編) |
| 726.5/Te 43 | 寺田克也SKETCH | 807/N 87 | 教育現場へのインパクト (CEFRの理念と現実:現実編) |
| 726.507/Y 99 | 世界観の作り方 : アイデア出しからデザインまでわかりやすいコンセプトアート入門 | 807/Sa 85 | コミュニケーションとは何か : ポスト・コミュニカティブ・アプローチ |
| 727/N 24 | 成功する名刺デザイン | 809.2/Ta 84 | 会って、話すこと。: 自分のことはしゃべらない。相手のことも聞き出さない。人生が変わるシンプルな会話術 |
| 734/R 49 | Thirty-six views of the Eiffel Tower | 809.6/A 53 | オンラインでもアイスブレイク!ベスト50 : 不慣れな人もほっと安心 |
| 760.4/F 65 | 音楽はお好きですか? | 810.14/Sa 13 | 日本語社会のぞきキャラくり : 顔つき・カラダつき・ことばつき |
| 760.4/Y 91 | クラシック音楽は「ミステリー」である | 810.7/Ma 81 | 21世紀型能力と日本語教育 : 批判的日本語教師研修モデルの提案 |
| 760.69/Mi 37 | コロナ禍のライブをめぐる調査レポート : JASPM COVID-19 research projects 2020-2021 聴衆・観客編 | 840.7/D 83/2021 | 独検過去問題集 : 5級 4級 3級 2級 準1級 1級 2021年版 |
| 761.1/G 75 | 音楽の哲学入門 | 840.7/D 83/3 | 独検合格4週間neu 3級 |
| 761.1/N 29 | ルソーの音楽思想 | 910.26/A 12 | 病んだ言葉癒やす言葉生きる言葉 |
| 761.1/Sm 1 | ミュージッキング : 音楽は「行為」である | 913.6/H 25 | 灼熱 |
| 761.2/H 56 | 原典版のはなし : 作曲家と演奏家のはざまに | 913.6/I 68 | ペッパーズ・ゴースト |
| 761.2/I 89 | 楽譜の話あれこれ | 913.6/Ka 88 | 夜行秘密 |
| 761.2/N 58 | この楽譜なら音楽はやさしい! : 全く新しい記譜法の紹介 | 913.6/Ki 54 | インドラネット |
| 761.2/N 84 | 楽譜をまるごと読み解く本 | 913.6/Ma 16 | 52ヘルツのクジラたち |
| 761.2/O 77 | 正しい楽譜の読み方 : バッハからシューベルトまで : ウィーン音楽大学インゴマー・ライナー教授の講義ノート | 913.6/Mi 96/1 | 夢をかなえるゾウ 1 |
| 761.2/Ta 33 | 楽譜の正しい選び方 | 913.6/Mi 96/2 | ガネーシャと貧乏神 (夢をかなえるゾウ:2) |
| 761/N 37 | クラシックの真実は大作曲家の「自筆譜」にあり! : 音楽の大福帳 | 913.6/Mi 96/3 | ブラックガネーシャの教え (夢をかなえるゾウ:3) |
| 762.3/Ma 74 | クラシック音楽全史 : ビジネスに効く世界の教養 | 913.6/Mi 96/4 | ガネーシャと死神 (夢をかなえるゾウ:4) |
| 762.349/C 53 | ショパンの音楽記号 : その意味と解釈 | 913.6/N 55 | 裏庭 |
| 762.349/C 53 | ショパン その正しい演奏法 : その演奏法間違っていませんか? : 楽曲の背景・解説と分析・演奏のポイント | 914.6/F 11 | 20代で得た知見 |
| 762.349/C 53 | ショパンのピアニスム : その演奏美学をさぐる | 914.6/H 92 | いのちの車窓から [1] |
| 762.349/C 53 | ショパンを読む本 : ショパンをめぐる50のアプローチ | 914.6/Ko 12 | 人間の建設 |
| 762.8/C 53 | ショパンパリコレクション : パリ・ポーランド歴史文芸協会フレデリック・ショパン所蔵品目録 | 918/I 35/9 | 平家物語 (日本文学全集:09) |
| 762.8/D 99 | Antonín Dvořák : letters and reminiscences | 930.28/Sa 85 | 『ハリー・ポッター』について論文を書きたいので、教授、授業の題材にしませんか? |
| 762.8/Mo 38 | 作曲家たちの風景 : 楽譜と演奏技法を紐解く | 933/D 89/1 | 緋色の研究 (シャーロック=ホームズ全集:1) |
| 763.2/C 53 | ショパンの表現様式の考察 : 「24のプレリュード作品28」の自筆譜に基づく | | |

(計 179 冊)

# メディアステーションをリニューアルしました

## 経　緯

2000年の開学当初から、図書館・情報センターでは館内に約100台の学生用PCを配置してきました。これは、図書館の所蔵する資料と、ネットワーク上の情報をもとに、さまざまな学習や教育に活用できるように整備されたもので、中でも70台のデスクトップPCが整然と並ぶ「メディアステーション」は象徴的な場所でした。

一方、大学図書館にはグループワークやプレゼンテーションなどによるアクティブラーニングを実践する場としての役割が期待されるようになりました。当館に於いても、デザイン学科教授の宮田圭介先生を代表とする研究「ラーニング・コモンズのあるべき姿の検討」などを通じて、検討を行ってきました。

そして、2021年度の本学年度計画に於いて「グループ学習を含む学生の能動的な学習を促進するためのラーニング・コモンズの実現に向けた環境整備を進め、運用を開始する」ことが明記され、整備が実現することとなりました。

## 設置場所の選定

どの場所をグループワークエリアとして整備するかについては、ゼミの実施など館内での運用実験を通じて検討が進められました。例えば、館内の1階には既に「グループ学習室」が設置されていますが、図書館入口やカウンターからは遠く、確保できるエリアに限界があるなどの課題がありました。

その他の場所も含め比較検討した結果、入口から近く学生が立ち寄りやすいこと、外廊下とガラス面で接し開放的であること、独立した一定の空間を確保できること、ネットワーク環境の整備に適していることなどから、2階「メディアステーション」を改修して対応することとしました。

## 構想の具体化

まず、改修後のイメージをパネルにして展示したり、アンケートを実施したりして、利用者への周知を図りました。そして、センター長（当時）の伊豆裕一先生を中心に、教職員・学生の協働で検討を積み重ね、改修に向けた以下の案をまとめました。

**メディアステーション改修計画　空間デザイン案**

**「歴史と学び、体験が循環する」**

1. 学内にある名作家具の活用

開学当時に導入され、学内各所に分散していた名作家具を活用する。現代に至る歴史に家具を通して触れる。

2. 学びを促すアーカイブ空間

館外の廊下側からは、発表年代順に並ぶ椅子について情報を得ながら、実際に利用されている状況を見て学ぶ。館内では、実物に触れて使用し体感することを通して学ぶ。

3. 柔軟な利用形態

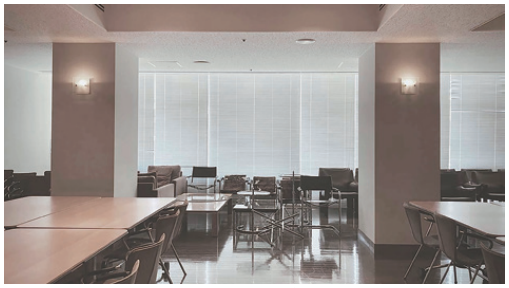
ホワイトボードやプロジェクターを使用できる場や、スキャナーやプリンターを使用した作業ができる場を確保する。複数での議論や、個人作業に対応する。

## 新たな利用法を実現

この案に沿って改修を進めた結果、「メディアステーション」は、ノートPCやタブレット端末で手軽に情報検索が行え、自由度の高い家具配置でグループワークなどのアクティブラーニングを実践できる場に生まれ変わりました。また、デザインアーカイブである名作家具を通して、それらが制作された時代に触れることのできる空間になりました。

本誌Vol.39でご紹介したように、2021年10月のメディアステーション プレオープンに合わせ、ポスター展「ポスターでみる20世紀 1950-1990」を開催しました。その後、利用状況に鑑み据付用PCテーブルなどを追加して導入し、2022年3月に改修を完了しました。

廊下より。家具とその情報が重ねあわされる



学内で使用されず眠っていた名作家具を調査

収集した家具を年代順に整理しそれらの情報を表示

名作家具を実際に使用しながら学ぶ

資料提供：亀井研究室（デザイン学科）

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C021550
FSC www.fsc.org